

メディアコミュニケーション学基礎演習 A 2

担当者	王 雪萍(オウ セツヘイ)				
年度	2019	授業コード	1540101002	科目ナンバリング	
対象年次	1~4	授業形態	-	単位数	2
時間割	春火 4	開講キャンパス	白山	教室	6 1 0 2 教室
主たる使用言語	日本語		実務教員科目		
授業科目区分					
授業回数					
受講対象学科					

【サブタイトル】

大学生のためのアカデミック・スキルズ

【講義の目的・内容】

本演習は、大学でメディア研究をするための基礎的な技法を習得する授業である。そのため、本演習では、情報収集・情報整理の方法、図書館・インターネット・データベースの利用方法、クリティカルリーディングの手法、研究テーマの設定、グループワークのノウハウ、研究成果の発表、プレゼンテーションのやり方、レポートの書き方などのアカデミック・スキルズを習得する。その上、メディアコミュニケーションに関する基礎知識を学び、各自の問題関心によって研究発表を行う、学期の最後に課題研究の成果を発表し、レポートを提出してもらう。また本演習は、メディアコミュニケーション学科新聞プロジェクトに参加する演習科目のため、授業中には新聞プロジェクトの関連行事や、新聞の比較分析なども行う予定です。

【学修到達目標】

1. 大学での学び方の基礎をマスターする。
2. 情報収集・整理の方法を習得する。
3. 図書館やインターネット、データベースの使い方をマスターする。
4. プレゼンテーションとレポートの書き方を習得する。

【講義スケジュール】

- 第1回 オリエンテーション、学生の自己紹介、発表についての説明
- 第2回 メディアコミュニケーションに関する概説、
- 第3回 アカデミック・スキルズに関する概説
- 第4回 大学の授業と勉強方法
- 第5回 図書館とデータベースの使い方
- 第6回 外部講師の講演
- 第7回 文書資料の種類、特徴、利用法とフィールドワーク
- 第8回 本の読み方——クリティカル・リーディングの手法
- 第9回 情報整理の仕方

- 第10回 研究成果の発表
- 第11回 プレゼンテーションのやり方
- 第12回 レポートの書き方
- 第13回 新聞・雑誌などのメディアの利用方法
- 第14回 朝日新聞と読売新聞の違いについての討論
- 第15回 個人発表のまとめと課題提出、夏休みの課題についての説明

【指導方法】

1. 演習科目は積極的な参加が必須である。毎回の授業で必ずすべての学生に発言機会を与え、自分の意見をしっかりと述べられるように努力してもらう。
2. 大学での勉強方法や情報収集、整理の仕方、文書資料の使い方、本の読み方、プレゼンテーションのやり方、レポートの書き方などアカデミック・スキルズを習得する。
3. 研究発表とレポート提出を通じて、自分の関心分野を見つけて、資料収集、資料分析の能力を向上させた上で、聴衆を意識したプレゼン能力を高める。

【事前・事後学修】

受講生には、毎回の授業内容について発言できるように事前に配布する資料、文献、教科書の関連部分を読んでから、授業に参加してもらう。また、個人課題に関しては、資料調査や発表準備をきちんと行うこと。毎回授業の後、しっかり復習し、教員の講義や、他の学生の報告に対する質問・コメントを必ず提出してもらいます。また授業時に教員が指示した課題についても必ず締切までに提出してもらいます。事前事後学習は毎週3時間程度必要です。

【成績評価の方法・基準】

授業参加度 10%
課題発表 40%
提出課題 50%

【受講要件】

なし

【テキスト】

佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦編著『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版』慶應義塾大学出版会、2012年、定価1080円。

橋元良明『メディアと日本人——変わりゆく日常』岩波新書、2011年、定価760円。

【参考書】

授業中に指示

【関連分野・関連科目】

【備考】

【添付ファイル1】

【添付ファイル2】

【添付ファイル3】

【リンク】